

館山海上技術学校マリンセミナー開催

7月26日 全海運と関東船対協協賛、総連合会協力

国立館山海上技術学校主催のマリンセミナーが7月26日同校で開催され、全国海運組合連合会と関東地区船員対策協議会が協賛、日本内航海運組合総連合会が協力した。

同校で毎年開催されているマリンセミナーは、夏休み期間中に生徒の保護者が泊まりがけで、同校の練習船による海上実習、カッター訓練を始め航海シミュレーター実習、パソコン授業、溶接実習、ロープワーク、座学などを体験する。保護者からは「日頃親元を離れている子供達の頑張り振りが改めて理解でき、親子の絆も深まり、保護者同士の懇親も図れる」と好評。毎年、7月の最終週末に開催されており、今回の参加者は25名だった。

今回は全海運から小比加恒久会長、中島繁専務理事、総連合会から畔柳健彦広報室副部長、ゲストとして永井直人日鉄住金物流執行役員内航海運本部長が出席。講演会では、大町誠一郎日鉄住金物流海運本部安全・船舶管理部長が内航海運の役割や内航船舶の紹介、内航船員の就職状況、内航船員の仕事・船内生活と待遇、内航業界と内航船員の将来などについてわかりやすく説明した。

写真右上から小比加会長、永井氏、大町氏
下は後援会会場と質問する保護者達

講演後、大町氏を中心に小比加会長、永井氏と保護者達との熱心な質疑応答が交わされ盛況だった。

その後に開かれバーベキューパーティーの会場でも、保護者たちは参加者と生徒達の将来を託す内航海運について、語り合った。



マリンセミナー恒例のバーベキューパーティー。学校教職員と保護者、出席者らが懇親深める